



NO. 977

2014/7/6

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二 四四五八
F 四三二 四四五七

南後援会 散策とパーク

「日本共産党南後援会は、6月29日恒例の「散策とパーク」を17名の参加で清里町の神の子池に行きました。神の子池は、摩周湖の伏流水からできています。1日12,000トンも湧き出しています。

その後、一行は裏摩周の展望台で摩周湖を眺め、清里町パスタランドで温泉とパークゴルフをして楽しい一日を過ごし、無事に帰りつきました。



戦争する国づくり反対 高校生にも憲法を知ってほしい

安倍政権が集団的自衛権行使容認を柱とした、解釈改憲の「閣議決定」を1日強行しました。

「引き続き息長く高校生に憲法や平和について考えてもらえようように、活動を行って行きたい」と話しています。

「平和憲法を守る網走の会」では、海外で戦争する国にはさせない。憲法をもっと知ってほしい」と、1日は南ヶ丘高校で、2日には桂陽高校の門前で、パンフレットを配布しました。

このような宣伝活動は初めての事です。

戸惑いながらパンフレットを受け取る生徒や、表紙の「戦争する国づくりは絶対ダメ！」を見て受け取る生徒、関わりたくない、避けて通り過ぎる生徒など、会のメンバーも複雑な表情を浮かべていました。今回高校生に届けられたパンフレットは350枚ほどでした。「平和憲法を守る網走の会」では、



いっせ東奔西走

一人の日本人も、一人の外国人も戦闘行為によって殺すこともなかった理由は、戦争をすることを禁じた憲法九条があったからです。

時の政府（権力者）がいくら解釈しても、実際に戦闘する地域に自衛隊を派遣を出来なかったのは9条が大きな歯止めとなったからです。

それが1日、平和の党を自認して集団的自衛権は認められないと言っていた公明党は安倍自民党の軍門に下りました。

集団的自衛権を使うと真つ先に攻撃の対象になるのはリーダー基地だそう。網走も例外ではありません。戦争のボヤは確実に大火になりつつあります。

今こそ「憲法守れ」の大きな声をあげてボヤのうちに消していこうではありませんか。

菊地ひろし まっしぐら。

街中西3プラザ（憩いの場）の「水のみ場の水が使用できない」との声を聞いて、現場へ行ってきました。草は伸び放題、イスは壊れたままなど管理が行き届いていない状態でした。付近の方に話を伺い、飯田市議と一緒に市役所の担当の方に「現場を確認し、付近の方の意見を聞いて対応してください」と申し入れました。しかし残念ながら、「担当者らしい人は来ていたけれど、私たちの意見を聞くことはなかった」とのことです。住民の声・市民の意見を生かしてこそ、公園の維持管理・利用方法・整備なども、うまく行くのではないのでしょうか。

松浦奮戦も

ついに安倍内閣は「集団的自衛権の行使を容認する」解釈改憲のための閣議決定を行いました。

この間、私は街頭から集団的自衛権行使容認は憲法上許されないと訴えてきました。世論調査でも反対の声が圧倒的に多いのに、安倍内閣はなぜ急ぐのでしょうか。

公明党も「福祉と平和の党」と主張してきましたが、自民党と連立する中で、福祉を切り捨て、今度は平和まで投げ捨てたのです。憲法9条は軍隊を持たず、戦争を放棄しているのです。

どう日本語を読み違えても集団的自衛権の行使は、できるはずがありません。若者を戦場に送るな！

流水

「アメリカが米中戦争を想定する時、アメリカや中国の本土ではなく日本を戦場に想定している」「中国の海軍が太平洋に出るのを、阻止する役目を日本に要求している、その時『集団的自衛権』が必要になる、遠い先の話ではない」「当然沖縄は破壊される」「カメラに向かって淡々と語っているのは元宜野湾市市長の伊波洋一氏。今年2月に取材したニューズリールだ。「アメリカは10年に一度戦争が必要な国（軍需産業が国の基幹産業）」とも。ウイキリークから入手した地図には沖縄を囲む地域は『破壊地域』とある▼8月に計画している網走母親大会で札幌の『森の映画社』の藤本幸久監督の映画上映を企画し実行委員会で試写した時のこと。上映を予定している米軍の新兵訓練を取材した『ONE SHOTO ONE KILL』を更に深く理解してもらえないのではと見たその内容に皆が息をのんだ▼「アメリカのシナリオの中で演じる日本を考えてみて。日本国民は守られない。戦場になるだけ」▼『ONE SHOTO ONE KILL』のチラシには『戦場は沖縄の先にある』と。そう、私たちの国の米軍基地がなければアフガニスタン戦争もイラク戦争も成り立たない、私たちも加担した戦争なのだ▼8月24日の網走母親大会には藤本監督も来網予定。沖縄の現実から目をそらすまい。（た）